

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告：第4巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/10571>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 4, pp.1-112, 2008-04. AQUA事務局

バージョン：

権利関係：

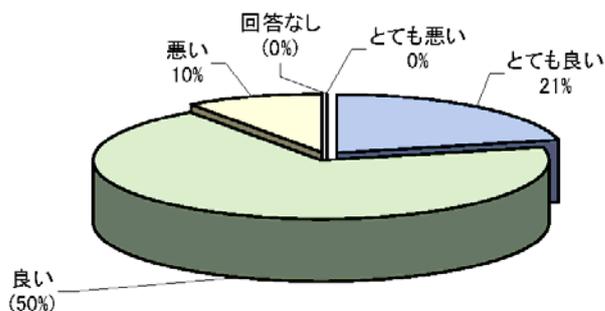
4) アンケート結果

#102-103 第24回 APAN 会議 西安 (1日目) 2007.8.29

第24回APAN西安会議 2007年8月29日

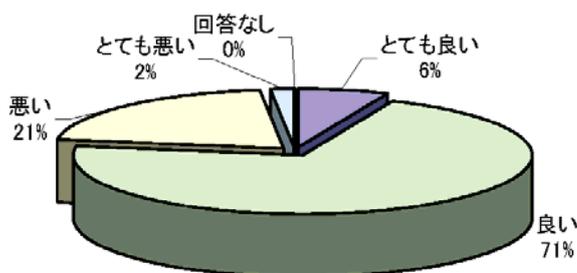
(1) 動画の画質について

| 回答 | # |
|-------|----|
| とても良い | 13 |
| 良い | 42 |
| 悪い | 6 |
| とても悪い | 0 |
| 回答なし | 0 |



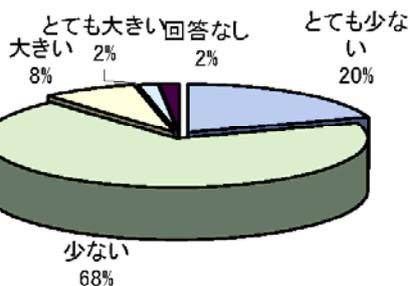
(2) 音質について

| 回答 | # |
|-------|----|
| とても良い | 4 |
| 良い | 44 |
| 悪い | 13 |
| とても悪い | 1 |
| 回答なし | 0 |



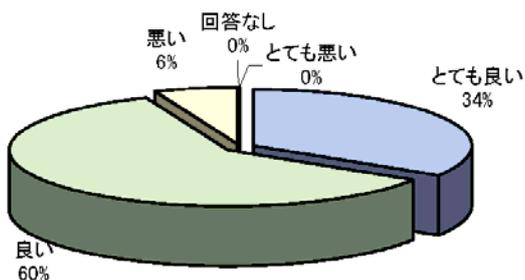
(3) 音声の遅延について

| 回答 | # |
|--------|----|
| とても少ない | 12 |
| 少ない | 42 |
| 大きい | 5 |
| とても大きい | 1 |
| 回答なし | 1 |



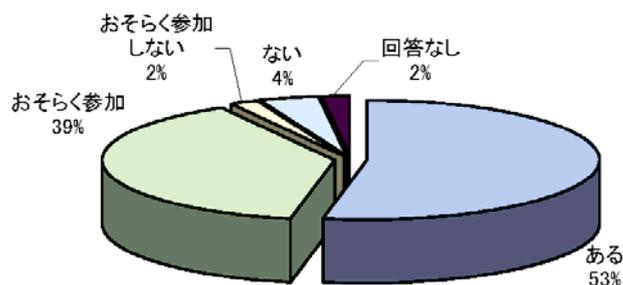
(4) プログラムについて

| 回答 | # |
|-------|----|
| とても良い | 17 |
| 良い | 30 |
| 悪い | 3 |
| とても悪い | 0 |
| 回答なし | 0 |



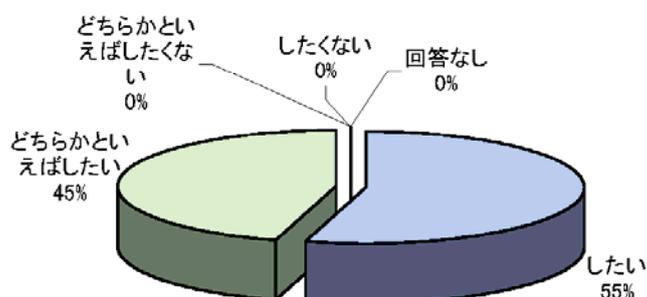
(5) 今後も内視鏡手術講演へ参加しますか？

| 回答 | # |
|-----------|----|
| ある | 26 |
| おそらく参加 | 19 |
| おそらく参加しない | 1 |
| ない | 2 |
| 回答なし | 1 |



(6) 将来的にこのブロードバンド技術を活用したいと思いますか？

| 回答 | # |
|---------------|----|
| したい | 24 |
| どちらかといえばしたい | 20 |
| どちらかといえばしたくない | 0 |
| したくない | 0 |
| 回答なし | 0 |



(7) 今回の遠隔講演で問題だと思われることがあればご記入ください。

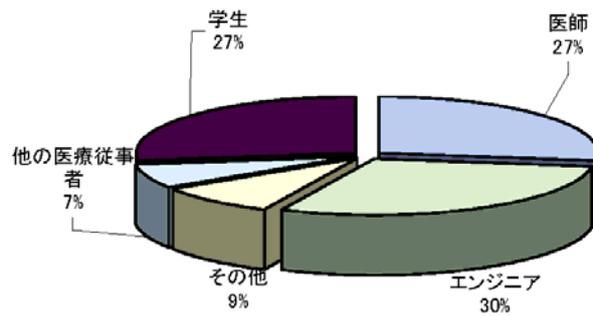
- * 各サイトのプレゼンウィンドウの標準化。
- * 音声の準備にもっと時間をかけるべき。
- * 一部の局(マレーシア)からの音声の品質。とても興味深く、大変良いプログラムだった。
- * マレーシアからの音声が安定していなかった。
- * 時々音声が聞こえなかったり、ノイズが入ったり、音量が大きかったりした。
- * 音声コントロール/制御の質(QOS)に問題。できり限り速やかに判断が出来る状態にする必要あり。
- * 共通の問題があれば、参加者に聞いて下さい。
- * 彼らは専門家であるTCC。また、ネイティブなので言葉も話せ、早く問題を解決できるかもしれない。
- * MD(医学博士)以外のオーディエンスの参加がなかった。
- * 講演の内容、作業内容等について、オーディエンスが理解していない。詳細が欲しい。
- * ラジオやビデオから送信時にノイズあり
- * 他の電話から多少エコーやノイズあり
- * 音声に問題があった。
- * 京都からの映像が不鮮明だった。
- * 音声の調子があまり良くなかった。
- * 英語のスピーキングに問題あり。
- * モニター等の技術的な問題。
- * 他の国の参加者が話さなかった。
- * 他の国の参加者と話す機会がもっと欲しかった。
- * 一部の局しか講演に参加していなかった。
- * 全ての局が同等の機会を与えられるべきだ。
- * 講演の運営が遅かった。
- * 転送の音声が小さかった。
- * 通常の講演と比べ集中しづらい(一度に写される局が多すぎる)。
- * とても混乱した雰囲気。
- * 各国とのネットワークがスムーズに行かない。
- * 音声の伝送と画質に難あり。
- * それぞれの病院がコミュニケーションシステムを改良すべきだ。

(8) このような医療遠隔講演に適すると思われるプログラムがあれば、お書きください。

- * プレゼンの図表の標準化
- * 次回のプログラムに、南アジア地域の局を含めるともっと良くなるかと思う。
- * 目の手術は、時間もあまりかからず、出血も少ないため、講演のジャンルとして一般的と思う。U/Sまたはpacs
- * ライブでの実演をお互いに交換する。
- * 適するプログラムはほとんどないのではないか。
- * 休憩の時間を頻繁に。
- * レントゲン講演
- * どんなプログラムでも良い。最新の施術を見せるのも良い。
- * ケースレビュー
- * 飲み物や食べ物、コーヒーブレイクが必要。
- * 講演、ERP、ENS

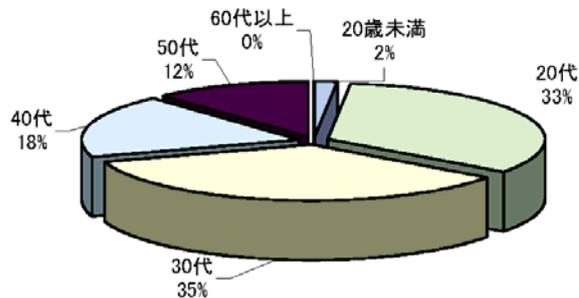
(9) 職業は？

| 回答 | # |
|----------|----|
| 医師 | 12 |
| エンジニア | 13 |
| その他 | 4 |
| -大学教授 | |
| -建築家 | |
| -マーケティング | |
| -講師 | 3 |
| 他の医療従事者 | |
| 学生 | 12 |



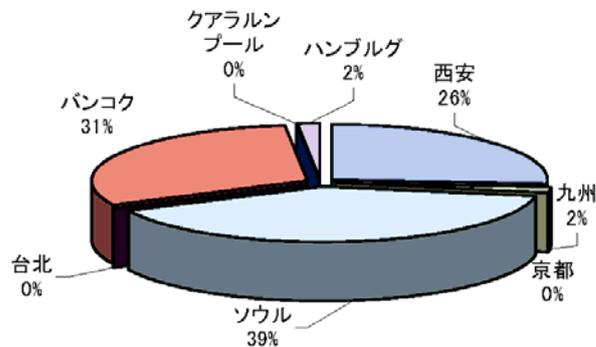
(10) 年代は？

| 回答 | # |
|-------|----|
| 20歳未満 | 1 |
| 20代 | 20 |
| 30代 | 21 |
| 40代 | 11 |
| 50代 | 7 |
| 60代以上 | 0 |



(11) 参加局は？

| 回答 | # |
|----------|----|
| 西安 | 17 |
| 九州 | 1 |
| 京都 | 0 |
| ソウル | 26 |
| 台北 | 0 |
| バンコク | 20 |
| クアラルンプール | 0 |
| ハンブルグ | 1 |

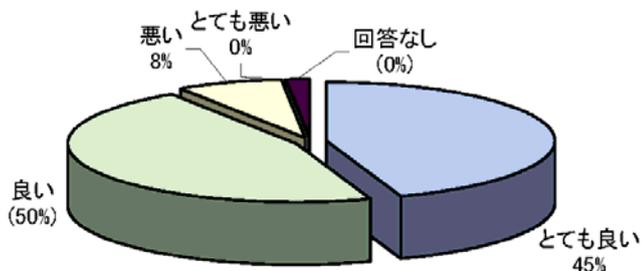


#104-105 第24回 APAN 会議 西安 (2日目) 2007.8.30

第24回APAN西安会議 2007年8月30日

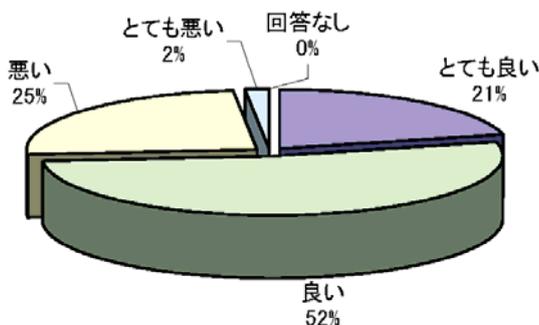
(1) 動画の画質について

| 回答 | # |
|-------|----|
| とても良い | 29 |
| 良い | 30 |
| 悪い | 5 |
| とても悪い | 0 |
| 回答なし | 1 |



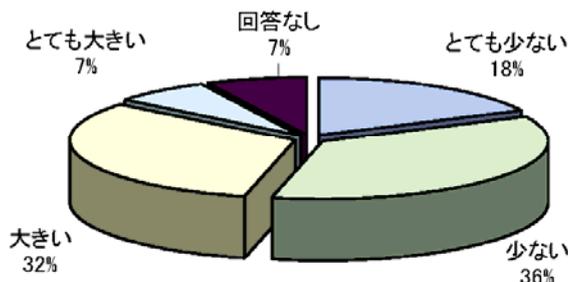
(2) 音質について

| 回答 | # |
|-------|----|
| とても良い | 12 |
| 良い | 30 |
| 悪い | 14 |
| とても悪い | 1 |
| 回答なし | 0 |



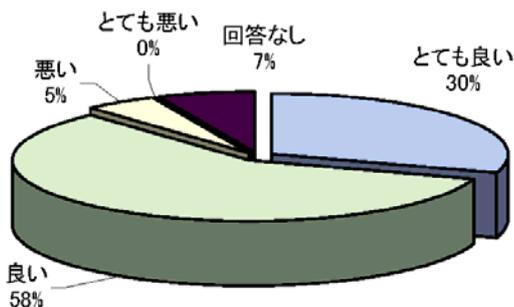
(3) 音声の遅れについて

| 回答 | # |
|--------|----|
| とても少ない | 10 |
| 少ない | 20 |
| 大きい | 18 |
| とても大きい | 4 |
| 回答なし | 4 |



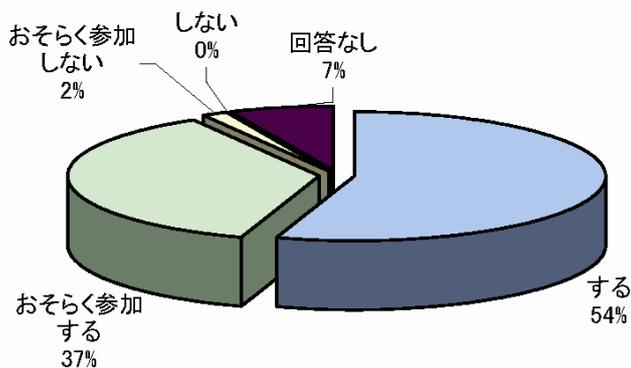
(4) プログラムについて

| 回答 | # |
|-------|----|
| とても良い | 18 |
| 良い | 35 |
| 悪い | 3 |
| とても悪い | 0 |
| 回答なし | 4 |



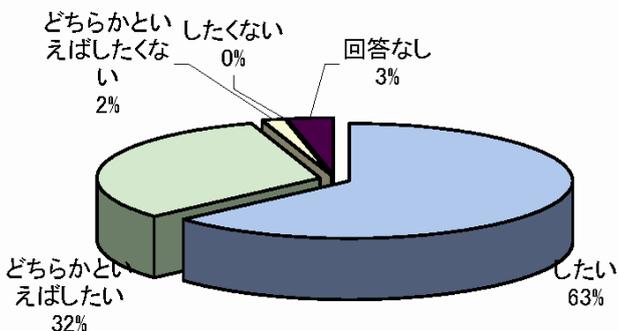
(5) 今後も内視鏡手術講演へ参加しますか？

| 回答 | # |
|-----------|----|
| する | 33 |
| おそらく参加する | 22 |
| おそらく参加しない | 1 |
| しない | 0 |
| 回答なし | 4 |



(6) 将来的にこのブロードバンド技術を活用したいと思いますか？

| 回答 | # |
|---------------|----|
| したい | 38 |
| どちらかといえばした | 19 |
| どちらかといえばしたくない | 1 |
| したくない | 0 |
| 回答なし | 2 |



(7) 今回の遠隔講演で問題だと思われることがあればご記入ください。

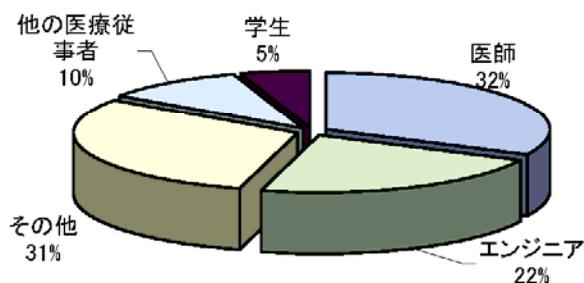
- * DVTSの代わりにHDTVを使うべき。
- * パケットロスが高かった。
- * 一部の局がマイクをオープンのままにしていた。
- * 遅れが非常に気になった。理解できない時が時々あった。
- * 遅れが大きかった。音のエコーがひどかった。
- * 特に右のチャンネルからのエコーがあった。
- * 初期の問題が解決できれば、とても使い易くなるだろう。
- * 遅れを分析、削減し、障害を特定する必要がある。
- * 全てのサイトで、マイクをミュートにする必要がある。
- * 手順やコミュニケーションをより良く理解するためには、音質を改善する必要あり。
- * 音声伝達に時々遅れがあった。映像に乱れがあった。
- * 音声の遅れ
- * 複数場所での(同時の)会話は可能か？
- * 音質を改良するべき。
- * 準備に時間がかかりすぎ(「聞こえますか？」等)
- * ハウリングの事前チェックをもっと手際よく行うべき。
- * 手信号のような物があった方が良いのではないか。または質問するための合図など。
- * エコーまたは音質のフィードバック
- * 音声の遅れが殆どない、または多少あるので十分。
- * 送信の際、時間差があった。
- * 講演スタート時に準備が出来ていないサイトがあった。

(8) このような医療遠隔講演に適すると思われるプログラムがあれば、お書きください。

- * 緊急を要する「バイオテロリズム」
- * 症例を扱った講演
- * 高度な内視鏡検査及び大腸内視鏡検査
- * 直腸間膜全切除及び大腸内視鏡検査
- * 側方骨盤郭清
- * 眼科、耳鼻咽喉科
- * 他の国際会議や講演など
- * 思いつかない。
- * 内視鏡下鼻副鼻腔手術

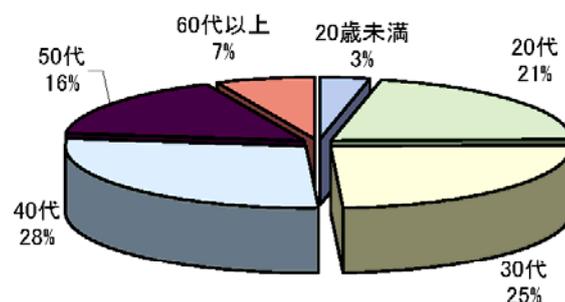
(9) 職業は？

| 回答 | # |
|---------|----|
| 医師 | 19 |
| エンジニア | 13 |
| その他 | 18 |
| -大学教授 | |
| -大学… | |
| 他の医療従事者 | 6 |
| 学生 | 3 |



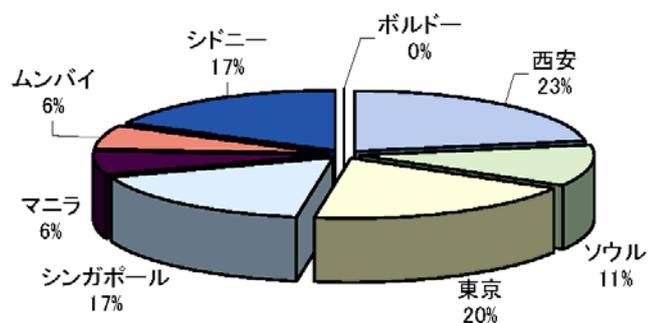
(10) 年代は？

| 回答 | # |
|-------|----|
| 20歳未満 | 2 |
| 20代 | 13 |
| 30代 | 15 |
| 40代 | 17 |
| 50代 | 10 |
| 60代以上 | 4 |



(11) 参加局は？

| 回答 | # |
|--------|----|
| 西安 | 14 |
| ソウル | 7 |
| 東京 | 12 |
| シンガポール | 11 |
| マニラ | 4 |
| ムンバイ | 4 |
| シドニー | 11 |
| ボルドー | 0 |



#112 第13回地域医療連携センター講演会 2007.11.20

アンケート

イベント名 第13回地域医療連携センター講演会

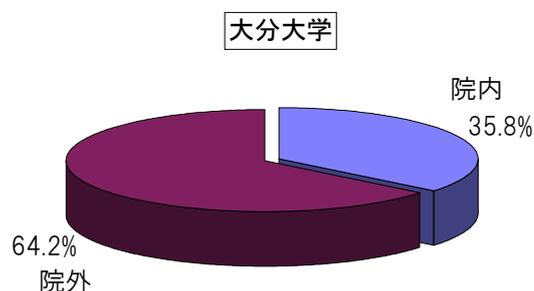
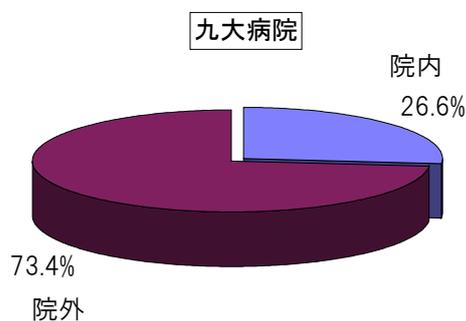
日時 平成19年11月20日(火) 18:00~20:00

開催場所 九州大学病院 (臨床大講堂)
大分大学医学部附属病院 (看護学科講義室)

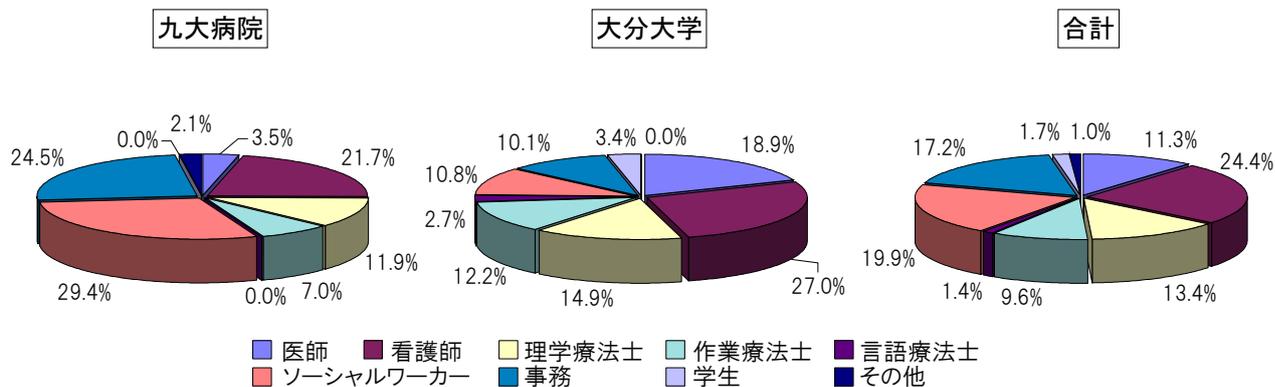
テーマ 回復期のリハビリテーションと地域連携
～脳梗塞の事例を中心として～

質問項目

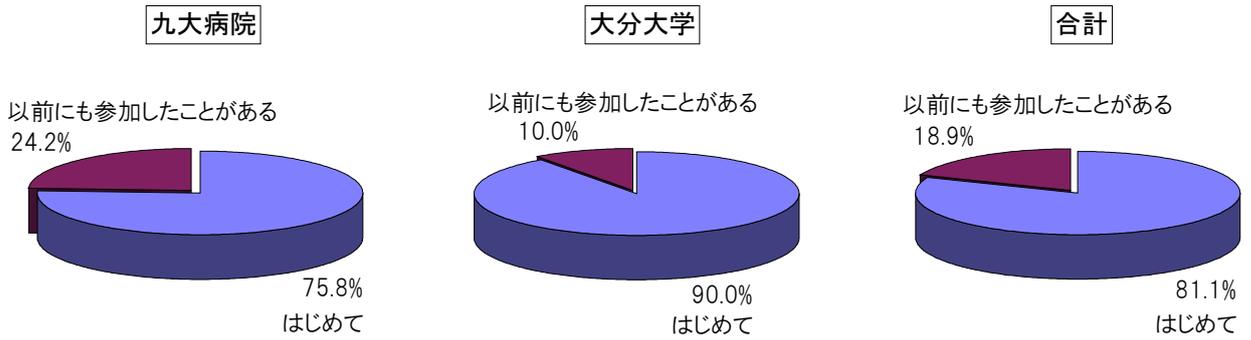
①参加者の比率



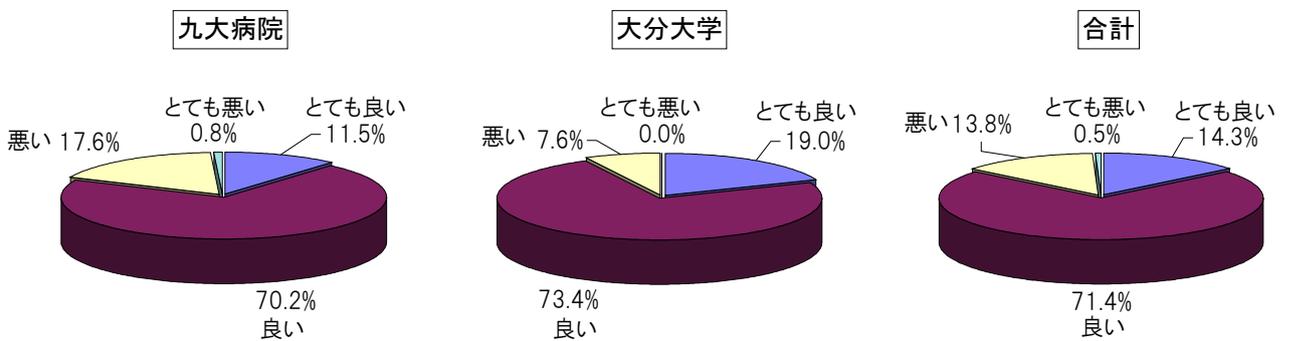
②参加者内訳 (職種別)



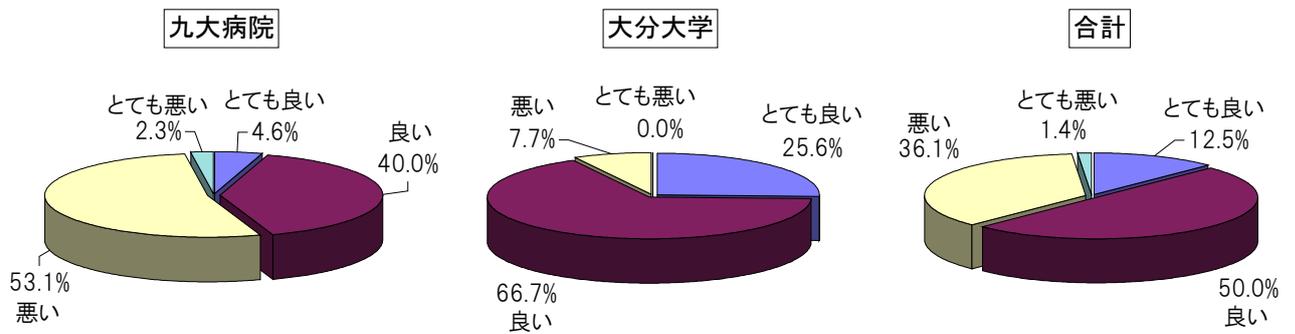
③遠隔講演会参加経験



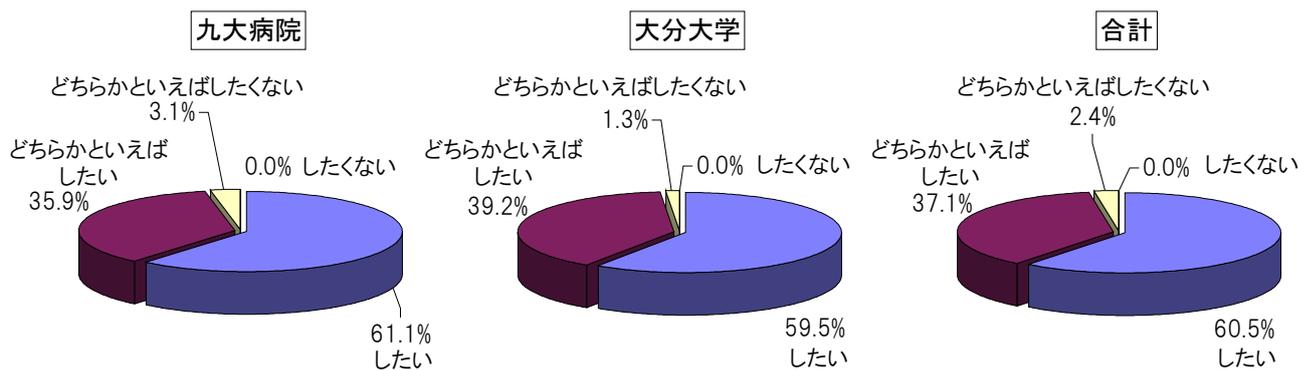
④映像品質



⑤音声品質



⑥今後の遠隔講演への参加意志



⑦意見・感想・要望

ご意見ご感想、ご要望などございましたらお聞かせください。

【システム面/運用面】

- ・音がもう少し聞き取りやすいとよい
- ・マイクの不良による不定期に入る雑音が気になった
- ・その場で講義を聞いているようだった
- ・(大講堂より)大ホールの方が入りやすい
- ・開催地が遠隔地となる場合に有効
- ・題目をもう少し減らし、もう少しゆっくり話を聞きたい
- ・(受信映像の)講演者の顔が見えづらく集中しにくかった。
- ・レーザーポインタの使用が遠隔地では見えなかった
- ・開催時期をできるだけ早く教えてもらいたい
- ・県南からの出席も考慮し、もう少し早い時間からの開始が望ましい
- ・開始時間が早いため、せめて 18:30～を希望
- ・もっと長い時間できたら良い(日曜開催など)
- ・資料も各1人ずつあり、とても聞きやすかった
- ・発表者の資料作りが良くない(字が小さい、見にくい、映像がはっきり見えないなど)
- ・ディスカッションがもっと活発に行われる環境作りが望ましい(時間をもう少しゆったり取るなど)
- ・アンケートが会議システムをアピールするためのように感じた
- ・写真をとられるのは好ましくない
- ・リアルタイムに情報交換・討論ができるのは有用

【講演内容】

- ・九大病院でも急性期リハビリ→回復期リハビリへの円滑な移行ができるシステム作りが今後必要
- ・急性期リハビリに関する情報が少なかった
- ・より質の高い回復期リハ病棟へ転院が重要だと話されたが、急性期から質の高いリハは必要(EBMA)で、むしろ単なる空床作りのための横流し転院(一貫した流れのリハ EBMC)は、寝たきり老人を作るだけ
- ・急性期の施設に於いてはリハビリに対する認識は低いように思えた
- ・「脳卒中地域連携パス」の充実と活用をすすめてほしい(県内同じパスが使えると良い)
- ・回復期リハを重点にもっと知りたい県外の方との情報交換(親交換)が十分できた
- ・回復期リハビリが充実するためには、人数の充実や日常生活援助の必要だということが勉強になった
- ・脳梗塞は早期治療が大切であり、その後回復期リハ病棟へと続いていけると良い
- ・急性期の大きな病院の現状を知る事ができた
- ・(自分の病院は)地域の病院であるため、色々な情報を得ることができるこのような情報ネットワークが今後大分県にもできると良い
- ・急性期病院より患者様へ情報をどんどん広めてほしい
- ・回復期の現状と、今後の展望・方向性についての話が特に参考になった

- ・ 地域、特に在宅間との連携についての話がもっと欲しかった
- ・ 連携パスについての苦労点(脳梗塞ではない大腿骨頸部骨折など)が共有できた
- ・ 連携パスが共有できるフォーマットを作成してほしい
- ・ 地域連携のパスが拡大していけたら良いと思う。
- ・ 桑野先生の講演を再度聞きたい
- ・ 地域連携ということでは、緩和期・在宅部門の報告をもう少し入れた方がいい
- ・ 今後、地域連携パス(脳卒中)が作成された後、他地域の症例検討を実施していけると具体的な課題が描出できてよい
- ・ 具体的な症例を用いての事例発表は大変興味のある内容だった
- ・ 地域側の現場の話があれば、より連携というところでディスカッションもできたのではないかと思う
- ・ 本日の講演で最近回復期病棟への入院患者の現状を知ることができ、とても参考になった
- ・ 今後の医療は、急性期と回復期の病院の連携が重要であるため、大変参考になった
- ・ 現在の回復期病棟の状況や急性期の病院の役割など理解できた
- ・ あきらめずに一旦回復期を対象の全ての患者様が経由できることは理想的
- ・ 湯布院厚生年金病院のMSWの数の多さがうらやましく思えた
- ・ 脳梗塞という1つのテーマで急性期、回復期共に話を聞くことができたことは、連携を行う上で相互の立場を理解することはとても大事
- ・ 県外の医療機関の話が「生放送」で聞ける事には大変うれしい
- ・ 他県の特異性が良くみえてくるため面白かった
- ・ エキスパートの話が簡単に聞けるのが良い
- ・ 九大病院の連携センターからの事例報告は参考になった
- ・ “遠隔地をつないだ講演会”だから参加するということは無い(公演内容の充実を希望)
- ・ 湯布院厚生年金病院の発表を楽しみに来た欲しい
- ・ (講演者間で)講演内容の重複があった
- ・ 病院の紹介だけでなく、治療面を深く説明してほしい